

感動を育み共有へ

弘栄設備工業㈱代表取締役社長
船橋 吾一氏



今年4月、6名の新人を迎えこのうち3名の技術職を含む5名の女性を採用しました。現在色々な経験をしてもらうべく、各部署で研修中です。山形県は女性の活躍推進と仕事と家庭の両立支援に取り組んでいる企業を「山形いきいき子育て応援企業」と登録・認定しサポートしています。弊社も「優秀(ダイヤモンド)企業」の認定を受けました。併せて建設業界は今、女性の活躍の場を広げるといった目標の下に改革を進めています。弊社の取り組みを紹介します。

まず、嘱託で働いていた女性を一括正社員に登用し、女性管理職を増やしました。環境整備といった手法で実践したところ、女性が核となり、効率的な仕事をするための様々な提案、改善がなされました。女性社員のモチベーションアップにもつながり、女性目線のきめ細やかな考えを経営に取り入れることができるようになりました。

次に、育児と仕事を両立できるよう在宅勤務制度を導入しております。これまでは事務職女性の

取得でしたが、工事に携わる技術職の女性についても、ネット環境を有効活用し図面作成、申請書類作成業務等を自宅で行っております。自宅での作業報告と出来上がった書類提出を兼ねた出勤の際は赤ちゃんが一緒に、会社中がその可愛さに癒(いや)されています。

弊社は1954(昭和29)年、祖父弘が山形市六日町で創業しました。栃木県生まれで戦前、満州に渡り満鉄の設備技師となり、終戦と同時に東京に本社を置く設備会社から、東根市神町の進駐軍宿舎建築現場に派遣され、暖房や給排水設備工事に携わり、そのまま山形の地に居を構えて独立しました。以来、地元の方々の支援を得て、建築設備工事ひと筋に事業を展開しております。

私は山形商工会議所議員でもある父征吾(現取締役会長)の後を継ぎ、2013年4月、42歳で社長に就任しました。若さに周囲は不安だったろうと思います。しかし、山形青年会議所で12年間活動し理事長を務めさせていただき、多くの仲間、先輩経営者の方々に出会い、様々な経験を得たことで、「自分なりの経営方針を立てなければ」と決意しました。それが「感動を育み共有すること」という経営理念になりました。自社及び協力企業の社員とその家族が「この会社に入って、この仕事をしていた」と実感してもらいたいとの思いからです。

社長に就任してから社員旅行の復活、父親が、母親がどんな仕事をしているのか知ってもらう子供見学会、感動共有事業と銘打った芋煮会など行ってきました。会社行事イコールマイナスと捉えられがちな部分を、家族を含めた全員参加型とすることによって、時間を共有し協力し合う社風を作りたい、会社が居心地の良い場所であることを目指しています。女性の登用も、「女性が活躍できる企業」と構えるのではなく、社内の雰囲気醸成され、男女区別なく個人が活躍できることが前提であり望みです。とはいえ、建設業界はまだまだ男性社会であり、当社の取り組みも始まったばかりです。なかなか一歩踏み出せずにいる女性もいます。その背中を押してあげるのがトップの役割と考えています。昨年、技能五輪(配管)の県代表として、敢闘賞を受賞する技術職の女性も出てきました。今年は山形県が開催県、ぜひ上位を狙いたいと意気込んでいます。「思い悩むよりは実行」。社員と共に挑戦していくのみです。